

『電話の話』

登場人物

女

男（声のみ）

時と場所

現代、女の部屋

女、バスタオルを持って風呂へ行こうとする。

と、スマホに電話がかかってくる。

女、電話を取る。

女 さとる？どうしたの？DVD？えり達と見ようって言ってたやつ？

女、テーブルの上にDVDが置かれているのを見て。

女 ああ、ごめん、私が持つてる。うん、まだ見てない。いつ？うん、わかった次会うとき持つてくね。他は？え、それだけ？だって、今日休日出勤だって言ってたでしょ？ 仕事中に電話してくるから何かと思って、ああ、昼休憩……え、なに、今の声。聞こえたじゃない。同僚？だって名前で、あ、ほらまた！会社の人が「さとるう」なんて呼ぶ？ねえ、どういうことよ？その声、もしかして、えり？えりの声だ。ちよっと、そういうこと！？まさか、私に嘘ついてえりと会ってるの？ああ、わかった、えりがあのDVD 見たいって言ったんでしょ。信じらんない、この浮気男。しかも私の親友と？！止めてよ、言い訳なんて聞きたくない。絶対許さないから。あんたとは別れる、当たり前でしょ、だって浮気したのよ！絶対、許さないんだから……絶対……もう、電話してこないで……

女、電話を切ると、しくしく泣いている。

男 （声のみ）おーい、いつ来るの？俺、湯冷めしちゃうよ  
女 ごめーん、今行く！

女、バスタオルを持って風呂場へ去る。おしまい。

『クローゼットの中身』

登場人物

女

時と場所

現代、友人の部屋の玄関と寝室

友人の部屋の玄関。

ドアの外側には大家がおり、女と話をしている。

女 はい、本当にすみません。あさひさん、月末までには退院できるそうですから。滞納してた家賃は……ああ、ご家族が……そうですか、ならよかったです。はい、それじゃあ

女、ドアの鍵を閉めると寝室へ来る。

女 はあー……

室内には段ボール箱があり、引越し途中のような雰囲気。

女、その辺の物を適当に箱に詰めていく。

と、スマホに電話がかかってくる。

女、確認し電話に出る。

女 もしもし？今、あなたのせいで大家さんに怒られたんだけど。あなたの部屋の大家さんにだよ？私のうちの大家さんじゃない。……確かに事故にあったのは気の毒だけど……はいはい。私に感謝してよね。……本当に思ってるの？とにかく、退院したらこの借りはちゃんと返してもらおうからね。あと、大家さんにも謝つといてよ。よろしく。荷物の送り先は実家の住所だっけ？オツケー。……え？ああ、クローゼットね。わかっている、だって何も入っていないでしょ？そんなとこ触らないってば、ただでさえ片付ける物いっぱいあるんだから。じゃあ、お大事にね

女、電話を切る。

女 たく、なんで私がこんなこと……（と、箱詰めを再開する）

と、スマホに電話がかかってくる。

女、スマホを確認し、電話を取る。

女 はい、もしもし……こちらこそお世話になってます、いえ、そんな……はあ、少し部屋の片づけの手伝いを……ええ、海外赴任中ですものね、仕方ないですよ。それに、あんな事故で……はい、ショックですよ、お気持ちわかります。私もすごくショックで。そんなまさか！私もあさひさんの為に少しでも力になりたいくて、ええ、だって友人ですから。え？来週には日本に……はあ、は……謝礼？いや、そんなお礼なんて……はあ……いえいえ、そんな、手助けするのは当然です……来週の日曜？はい、空いています……ええ……はい、わかりました。じゃあ、来週。お父様にもよろしくお伝え下さい、はい、失礼します（電話を切る）

女、機嫌よく片づけを再開する。

と、どこからかノックのような音が聞こえる。

女？

女、玄関に行くが外に人はいない。

女、戻ってくると片づけを再開する。

と、再び音が聞こえる。

女……

女、耳を澄ませると、どうやら音はクローゼットの中から聞こえる。

女 何も入ってないんじゃないの……？

女、恐る恐るクローゼットを開ける。

女 ……！！！！

おしまい。

『幽霊が家にいる話』

登場人物

女

場所

『女』の部屋

机があり、椅子に女が座っている。女は上半身しか見えない。

私 ……なるほど。じゃあ、あなたは、気づいたらこの部屋にいたってことなんだ？うん  
うん……へえ。でも、なんていうか、その、意外。だって、普通、幽霊ってもつとこ  
う、その……よくわかんないけど、とにかく、こういう感じじゃないと思ってたから。  
もちろんこれは想像だよ、だって、私だって本物の幽霊なんて見るの初めてだし。イ  
メージではこう、ゴーストバスターズとかキャスパーとかシックスセンスとか、なん  
かそう言う、もつとモコモコとかフワフワしてるとか、そうじゃなかったら、もつと、  
怖そうなやつ？そう言うの想像してたから、あなたみたいな、その……普通っぽい人  
が、じゃない、普通っぽい幽霊がいるって言うのは、びっくりして。他にもみんなあな  
たみたいなの？……ああ、そうだよ、会ったことないか、ごめん。それに、私たち  
のことも全然知らないでしょ？幽霊って自分の関係する人のところに出るもんだと  
思ってたから、私もそう思うって？だよ。ここに理由もわからないなんて、え？  
……なんでなんで？全然迷惑とかじゃないよ！気にしないで、うん、ホントに。あの  
さ、よかったら、その、話し相手になってくれない？私の同居人あんまり帰ってこな  
いんだよ、だから退屈で、どう……？ホント？よかった。ねえ、名前はなんて言う  
の？……へえ！よろしくね。あ、待って、今お茶入れるから、え？あそうか、いらな  
いよね、そうだよ。うん、私もいい。え？ヤじゃないよ、だって全然怖くないし、  
あ、ごめん傷ついた？……よかった。とにかく、この部屋、好きに使っていいからね。  
これから、よろしくね

と、女、何かに気づき。

女 あ、帰ってきた！この人が、私の同居人！

女、誰かを招き入れるが、誰の姿もない。おしまい。